

今年度の 丹波「学校を核とした地域づくり」 プロジェクトのふりかえり

特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構

蔦木伸一郎(社会教育士)

自己紹介

蔦木 伸一郎(つたき しんいちろう)

山梨県出身・2022年4月に丹波市に移住

2022年3月から**社会教育士**として活動

NPO法人丹波ひとまち支援機構／丹波市市民活動支援センタースタッフ

たんば社会教育士コミュニティ メンバー

前職は図書館長・公民館長／司書資格保有者

・**学びを通じた「人づくり、つながりづくり、地域づくり」の支援に取り組んでいる。**

・丹波市まなびの里づくり協議会 委員 / 丹波市教育振興基本計画審議会 委員

・地域から考える学びの未来会議(ミラカイ) コアメンバー

・南小学校コミスクぬぬぎびとメンバー(地域学校協働活動)



まなぶ つながる つくる

たんば社会教育士
コミュニティ

SNSで発信しています。
フォローお願いします！



@aar.tamba



@aar.tamba

no+e

@aar_tamba



まなぶ つながる つくる
たんば社会教育士
コミュニティ

社会教育士とは？

学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりの中核的な役割を果たす。

- ・社会教育主事講習等の学習成果が、教育委員会事務局や首町部局、企業、NPO等の社会教育に携わる多様な主体の中で広く活用され、連携・協働して人づくりに活躍していくことを図るために、2020年4月から新設された称号。
- ・社会教育の体系的理解や専門性、コーディネート能力・ファシリテーション能力等の発揮が期待される。



社会教育士による報告会を開催します！

＼はじめまして。私たち社会教育士です！／

社会教育主事講習報告会

報告者／所属：

- ・ 笛木 颯仁 / 丹波篠山市教育委員会
- ・ 足立 大希 / 丹波市役所
- ・ 蔦木 伸一郎 / 特定非営利活動法人
丹波ひとまち支援機構

主催：



まなぶ つながる つくる
たんば社会教育士
コミュニティ

2024
3.14 (木)
19:00 - 21:00

開催場所：

丹波市市民プラザ



特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構のミッション



たんばからひとまちを支援する

地域課題はたくさんありながら、その担い手や財源は減る一方です。しかし、自らが住むまちを、自らの手で見直したり、つくり上げていくことは、やりがいや楽しみでもあります。

これからも地域社会で豊かに暮らしていくためには、これまでの仕組みのあり方を見つめ、住んでいる皆さんの形にしていくことが大切です。

たんえんでは、丹波市を拠点に、人と人を繋ぎ、まちを前向きに考えていける、変えていける仕組みづくりに挑戦します。

地域運営組織や市民活動団体への支援、生涯学習の推進を通じ、持続可能なまちづくりにむけた地域自治の再興と市民意識の醸成に挑戦するため「丹波ひとまち支援機構」2020年10月に設立しました。



丹波「学校を核とした地域づくり」プロジェクトの目的

丹波市では 2017年から「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」を導入し、各小学校に学校運営協議会を設置して「地域とともにある学校づくり」に取り組んでいます。2023度からは「学校を核とした地域づくり／地域学校協働活動」が丹波市教育委員会の教育実施計画の重点施策に設定されました。

学校・地域との連携・協働の推進役となる地域学校協働活動推進員は9名です。学校・地域・市民活動等をつなげるコーディネート役として求められるものは大きく、行政部署間の連携、推進員の人材育成、地域住民や教職員の理解促進等が課題となっています。

2年目となる今年度は、「子どもも大人も学び合い、育ち合う、誰もが楽しく参画できる地域づくりをめざして」をテーマに、地域と学校の連携・協働のあり方について考え、学ぶことができる機会をつくり、地域学校協働活動に関わる人々・関心のある市民のために本プロジェクトに取り組んでいます。

今年度の実施したこと

- ①【まなび】 学校を核とした地域づくり講座の実施（全3回／8月・9月・10月）
- ②【交流】 交流会の実施
- ③【連携】 行政に対する政策提言
- ④【調査／**新規**】 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取り組みに関するアンケート調査の実施（小学校21校・中学校5校）
- ⑤【調査／**新規**】 地域学校協働活動推進員に対するヒアリング調査（8名）
- ⑥【連携／**新規**】 「丹波市版地域学校協働活動ハンドブック(仮)」の作成に向けた連携・協働

丹波「学校を核とした地域づくり」プロジェクトの報告は、たんえんのウェブページでご覧いただけます！



学校を核とした地域づくり講座 第1回

2023年9月10日
丹波新聞掲載

地域と学校どうつながり
ひとまち支援機構「学校を核とした地域づくり講座」の1回目がこのほど、丹波市市民プラザで行われた。NPO

地域と学校どうつながり

「学校を核とした地域づくり講座」の1回目がこのほど、丹波市市民プラザで行われた。NPO

法人・丹波ひとまち支援機構の主催。地域全体で子どもたちの成長を支える仕組みとして社会教育法に盛り込まれている「地域学校協働活動」を



より良い「地域学校協働活動」について話し合う参加者たち＝氷上町本郷で

より良いものにするのが狙い。市内では現在、9校8人の同活動推進員が配置されており、市教育委員会は全市に広げたい考え。

同活動推進委員、学校運営協議会委員、教職員ら約30人が参加した。市教委の担当者が同活動の概略や同活動推進員の役割を説明。船城小学校の同活動推進員の金川方子さん、春日部小学校の同活動推進員の畑英文さんが事例報告を行った。

金川さんは、6年生が地元の夏祭り

に参画する際、企画、運営、予算立てのほか、利益を何に使うか、までを全て自分たちで決めた様子を紹介。畑さんは、地域の子どもが地域で学ぶ「はるべ塾」で、地元出身の大学生を講師に招いたところ、子どもたちに好評だったと報告した。報告を受け、参加者が5つのグループに分かれて、同活動をいかに進めればよいかを話し合い、「学校を、地域住民が行きやすい場にしよう」「学校には独特の文化があり、先生が『こうしなければ』と想っている」中でも、地域が入ることで『で』までなくなっていくよ』ということがあるのではないか』などの報告があった。

きょう10日に開く2回目は図書館との連携をテーマに、10月21日を開く3回目はPTAとの連携をテーマに開く。いずれも午後1時半から同プラザ（丹波ゆめタウン2階、氷上町本郷）で。市民活動支援センター（0795・82・8668）3。月曜休館。

船城小学校の図書室での取り組み

図書室を住民に開放

船城小 有志が蔵書管理に協力
毎週金曜に

船城小学校が、学区の各町会と連携し、児童が利用しやすい図書室を開設した。本館は、船城小学校の図書室にあり、毎週金曜日に、学区の各町会から有志者が集まり、蔵書管理に協力している。この取り組みは、学区の各町会と連携し、児童が利用しやすい図書室を開設した。本館は、船城小学校の図書室にあり、毎週金曜日に、学区の各町会から有志者が集まり、蔵書管理に協力している。



「ふなキッパふれあい図書室」として住民に開放している図書室 - 春日町朝日

船城地区自治協議会は、日、動物や奉子を味いながら地域の歴史を学ぶ「歴史カフェ」を、初めて船城小学校で開催した。住民約10人と、6年生7人が参加。住民に開放している図書室で、校区にある舟城神社の狛犬の特徴や知られざる歴史について学んだ。(奥島幸平)

小学校で初「カフェ」

神社の狛犬の歴史学ぶ

船城地区自治協議会は、日、動物や奉子を味いながら地域の歴史を学ぶ「歴史カフェ」を、初めて船城小学校で開催した。住民約10人と、6年生7人が参加。住民に開放している図書室で、校区にある舟城神社の狛犬の特徴や知られざる歴史について学んだ。(奥島幸平)

船城地区自治協議会

同協議会は毎月1日の岸上・船丸各地の巡回、市文化財保護協議会、大と比叡まつり、舟城神委員の因幡まつり、春の狛犬のデザイン、日町軒野を講師に招いた「狛犬の歴史」をテーマにした講座を開催し、地域の歴史や文化について学ぶ機会を提供している。地域有志者が中心となり、住民と子どもが関わる「難波金長衛(春日町野村)」を開催し、本会館に展示されている「舟城110周年」の歴史を学ぶ機会を提供している。



船城小学校で初めて開かれた「歴史カフェ」 - 春日町朝日

丹波新聞掲載
←2023年11月19日

2023年11月12日→

た。ながみち尾立ちなご能性が高いと推定された。石臼に押しつぶした。獅子狛犬と別の2代目芸術の絵が描かれた。舟城神社(舟島町野)の動物を対する起源に金長衛が主たる製作者としての文化排除を主張した。舟城神社に祀られてきたことが知られてきた。狛犬の歴史は、舟城神社に祀られてきたことが知られてきた。狛犬の歴史は、舟城神社に祀られてきたことが知られてきた。狛犬の歴史は、舟城神社に祀られてきたことが知られてきた。

「ふなキッパふれあい図書室」として住民に開放している図書室 - 春日町朝日

小中学校アンケート(たんえん調査)

学校司書の設置の必要性を感じますか？

	小学校(21校)	中学校(5校)
必要性を感じている	16校(76.2%)	2校(40%)
必要性を感じていない	2校(9.5%)	0校
分からない	2校(9.5%)	3校(60%)
その他	1校(4.8%)	0校

「図書館の可能性を考える交流会」の目的

丹波市では学校司書が配置されていません。

この交流会では、今年度のプロジェクトをふりかきつつ、今年度の講座の中で注目された「学校図書館」や「公共図書館」の機能や、図書館運営を担う人々である司書、学校図書館サポーター、学校司書の取り組みについて取り上げます。

学校司書が配置されていない丹波市における学校図書館、公共図書館の役割について考えるとともに、子どもたちの学びを支え、地域とのつながりを生み出す図書館の可能性について考えていきたいと思えます。

この交流会は、参加者と講師、報告者が一緒になって学び合う場です。

今回のテーマ（趣旨）

「子どもたちの学びを支え、 地域とのつながりを生み出す図書館の可能性」

○【公共図書館】「子ども司書養成講座の取り組み」

丹波市立図書館 高見 弘子さん

○【学校図書館】「学校図書サポーターの取り組み」

学校図書サポーター 宮崎 千枝美さん / 永井 暁美さん

○【ゲストスピーカー】「学校図書館の捉えなおし」

長野県高森町立高森北小学校 学校司書 宮澤優子さん